

最近の雑感

ここ最近のAI技術の進歩は目覚ましく、医療業界においてもさまざまな場面で活用されるようになった。身近なところでも胸部レントゲンにおける自動解析やカルテの自動要約など日常の診療の中でもAIの可能性がどんどん広がっていると思う。そんな中でも、特に身近なAIがChatGPTのような対話型AIサービスかと思う。そんなChatGPTに最近の医療経営を取り巻く環境について尋ねてみた。医療機関にとって厳しさが増しているポイントとして、①人口構造の変化（少子高齢化）、②診療報酬・介護報酬の抑制、③人材不足と人件費の上昇、④医療の高度化・専門化、⑤地域医療構想・再編の圧力、⑥患者・利用者の意識変化、⑦デジタル化（DX）の進展、と7つの項目を挙げてくれた。

自らのこととして考えたときに確かにどれも当てはまるとは感じたが、ここ最近特に実感したのが、③の人材不足と人件費の上昇である。というのも、当院でおよそ一年前に短い期間の中で複数のスタッフが各々の事情で退職するというタイミングを経験した。もともとあまり人の入れ替わりがなかった当院で、同時期に複数の新たな人材を揃えていくにはかなり苦労した。しかもスタッフを増員したいと考えていたタイミングでもあったので尚更であった。募集をかけていくとハローワークからのみではなく、いくつもの民間の人材派遣会社からも問い合わせが殺到する。ただ、派遣会社からとなるともちろん膨大な費用がかかるため、リスク回避のためにもなんとかハローワークや直接の希望者を切望する日々であった。その後、なんとか予定人数まで人員が揃い、今ではそれなりに診療も軌道に乗ることができた。

飄

々

広報委員

岡山 智亮

ここ最近、医業の廃業も問題となっているが人材不足や人件費の上昇が要因となっている部分も多々あるのではないかと想像する。人材不足が深刻な現状を考えると、民間の人材派遣会社が人材を求める私たちの重要なパートナーとなってくるとは思う。ただし、いろいろなトラブルを見聞きする機会もあり、雇用者側からするとどうしても費用等のリスクを考えると慎重にならざるを得ないところがあると思う。今後もう少し私たちにとって安心して利用できるような形になってほしいところではある。

最後に話が少し戻るが、AIやDXをうまく活用していくことで人員削減につながる部分はあると思うし、効率化を図れる部分もあると思う。それでも、感情を交えたコミュニケーションや、突発的な事案に柔軟性をもって対応するようなことに関してはまだまだAIやDXでは成し得ることのできない部分であると思う。そんな中、スタッフと働けることのありがたみをしみじみと感じる今日この頃である。

県下唯一の医書出版協会特約店

医学書専門 井上書店
看護学書

〒755-8566 宇部市南小串2丁目3-1(山口大学医学部横)
TEL 0836(34)3424 FAX 0836(34)3090
[ホームページアドレス] <http://www.mm-inoue.co.jp/mb>.
新刊の試覧・山銀の自動振替をご利用下さい。